



宮ヶ瀬湖から

「風のたより」

NPO法人
宮ヶ瀬湖ボートクラブ

第3巻第2号

2009年8月15日

ごあいさつ

厳しい残暑の候となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか？世界経済が大揺れの状態で年明けを迎えた2009年も半ばを過ぎましたが、経済、社会はいまだにアップダウンを繰り返しています。そんな環境をよそに、わが宮ヶ瀬湖ボートクラブは順調に基盤を整えつつあります。保有あるいは管理下にある艇は、エイトからシングルまでそろえ、多様なニーズに応えられるようになってきました。活動も大会開催、レース参加、各地の漕艇場訪問、ボート以外のイベントなど多岐にわたっています。これからさらに艇、オールの整備を進めて、ローイング水域として宮ヶ瀬湖がもつ魅力をいっそう引き出して、ボート愛好家や一般の方に楽しんで頂けるようにします。

宮ヶ瀬湖ボートクラブ会長 山下 長兵衛

宮ヶ瀬湖の日常：土曜日定例の「漕ぐ会・ふれあいボート教室」(1月～6月)

1月10日(土)の初漕ぎを皮切りに、毎週土曜日に開催してきました。半年で合計22回、252名が参加。

安全第一を考え、荒天時は漕艇を中止しますが、それでも山紫水明の宮ヶ瀬湖が大好きな皆さんが艇庫に集まり、エルゴ練習や、メンテナンス作業に取り組んでいます。

「無理せず、競わず、和気藹々」をモットーとして活動していますので、クルー編成も当日のメンバーで臨機応変に組みます。艇種が揃ってきましたので、漕歴と目的にあわせた漕艇が可能です。初心者には基本的にはクオドルプルで指導しています。

ときには、団体参加もあり、団塊号、稲門ミドル、レイクサイドの皆さんが常連です。漕艇はもちろんですが、四季のうつろいを眺めながらの湖畔昼食会を楽しみにしているメンバーも多いようです。

中央湖面には、宮ヶ瀬ダム周辺振興財団の計らいで、中央ラインの赤ブイ距離表示が整備されました。直線1000mの漕艇も可能で、競漕派の皆さんには、レース前の集中練習にはもってこいと好評です。あらためて財団の配慮に感謝したいと思います。

(立花)

宮ヶ瀬湖ボートクラブが主催した大会他のイベント

1. 観桜遊漕会、4月19日

前日の大雨が晴れ上がり、お目当ての山桜は散ってしまいましたが、新緑がみずみずしい宮ヶ瀬湖で恒例となった観桜遊漕会が開催されました。

今年の参加はクオドルプル、ナックル、エイトの9チーム。小学生から75歳の高齢者まで、漕歴もさまざまなクルーが、まずは500mの手作りコースで「並べ」のレース気分で熱の入った漕艇を展開し、その後豁然と広がる本湖に漕ぎだし漫漕を楽しんでいただきました。

本湖漫漕では、天気晴朗にして波高しでしたが、湖を囲む緑の山々を眺めながらのんびり楽しむクルーもあれば、6月予定の全日本マスターズをめざした集中練習に励むクルーもありました。

漕艇終了後、豚汁を味わいながらの昼食会。

今年も艇庫の前のあちこちで弾む声が聞こえる遊漕会でした。

(村上)



宮ヶ瀬湖の「非日常」： 銀幕デビュー



宮ヶ瀬湖と虹の大橋が、劇場映画の大画面に登場。この5月に全国で順次公開された映画「おとなり」です。大手新聞の映画評で秀作としてほめられた映画です。主演はV6の岡田准一と

いう人気男優。カメラマンの主人公は高校時代ボート部員で、あるとき故郷のボート場を訪ね、後輩たちにカメラを向ける。その高校生が、われら「漕ぐ会」常連。撮影は昨年秋の小雨の中。撮影本番を待つこと3時間。

先行ロードショーにかけたのですが、画面に出たのはほんの1分。しかし、エンドロールに「宮ヶ瀬湖ボートクラブのみなさん」と出てきて、その下に撮影協力をしたメンバーの名前がずらりと並んでいました。

(立花)



2. 水上運動会、7月21日

宮ヶ瀬湖の水上運動会という「リレー」と「冷やし汁粉」が定番になりつつある。

リレーでは参加クルーを小学校の運動会のように赤組と白組に分けてリレーする。今年は第1リレーのエイトが接戦の状態で第2リレーに引き継いだ流れを受けて最後まで勝負がわからない面白いものになった。

汁粉は熱いのが当たり前と思っていたら大間違い。冷たいのもおいしいのだ。「3杯も食べました」とはアメンボウキッズの猛者。大人だって負けてはいない。来年の汁粉が待ち遠しい。



「のんびり漫漕・・・」と思っていたら、リレーで力いっぱい漕ぐはめになり、また中央湖面では「並べ」を挑戦されてへろへろになった、という声あり。来年はのんびり碧水と山の緑を楽しんでください。

(三原)

3. AED講習会、7月25日



水上スポーツの漕艇では、「安全」が最優先事項。今回の研修会は、命を守る手段としての救命処置、心肺蘇生法を学び、AED(自動体外式除細動器)の使用方法を習得するために、実施しました。AEDは艇庫管理棟に常設されていますが、使い方を知らなければいざというときに役に立ちません。会場は管理棟2階会議室、講師は愛川消防署半原分署の救急隊員2名。受講者は漕ぐ会常連の9名。講義はほとんどなく、独自に作られたビデオで手順が説明され、それと同じことを受講者1人1人が実践するという方法(Watch-then-practice)。仲間に見られているということで緊張しながら真剣そのもの。最後は、応用問題が出され、グループ毎に救急現場での実践発表。漕艇場に倒れた者、風呂場で意識を失った者の命を救えるか。皆さん、役者ぶりを遺憾なく発揮。全員、救命技能を認定され、「普通救命講習修了証」が授与されました。

(立花)

横浜ドラゴンボートレース、6月6日



横浜山下公園前で6月6日(土)に行われた横浜ドラゴンボート大会は2005年の初出場から「楽しかった、来年も・・・」の声をうけ毎年参加し今回は5回目の出場横浜開港150周年の節目に当たり今回こそはと上位入賞をと宮ヶ瀬湖BC(4名)、一葦会(4名)を中心にボート団塊号(6名)、鶴見川マスターズ(4名)、共立女子大OG(5名)から参加者23名が集まりました。

当日は生憎朝から小雨が降り肌寒く海面は風とうねりの悪天候の中で各クルー2回ずつレースが行われ良い

ほうのタイムで順位がつけられました。

宮ヶ瀬湖BCの1回目は スタートで出遅れ先行する艇を追う形で大きなうねりの中を漕ぎましたが思うように艇は進まず後半追い上げたものの1位とは僅かな差で2位でした。

宮ヶ瀬湖BC2回目は スタートから積極的に飛び出し50m地点では早くも2位と1艇身差がつき漕ぎも力強く1位を確信しましたが2位の艇が100m地点で右後方から追突してきて大きくバランスが崩れあつという間に全員海中に投げ出されてしまいました。

規則では追突した艇は失格、追突さ



れた艇は回復しゴール出来ればレース成立ですが重くて頑丈な艇は船底を天に向けたまま復元はできず残念ながらゴールはできませんでした。

レース後中華街で行われた打ち上げでは参加者から来年も参加したいとの意見が噴出し来年の横浜ドラゴンボート大会の入賞を誓いあいました。

(犬塚)

全日本マスターズ選手権大会に「宮ヶ瀬湖一葦会」登場、6月13日—14日

去る6月13日(土)と14日(日)に長野県下諏訪漕艇場で第2回全日本マスターズレガッタが開催された。第1回より参加者・団体とも増えて87団体、881名、延べ326クルーが参加した。初日は時折晴れ間も見える曇り、噂に聞いていた風・波もそれほど強くならず湖面コンディションは良好であった。それでも突然風が出てき

て、防波堤の切れ目(スタートから500m付近で約50mの間)から波が入ってきて苦勞したクルーもいた。高山さんはクオド、エイトで出場するはずであったが新型インフルエンザのとばっちり急遽不参加となり残念だった。

宮ヶ瀬湖一葦会からはクオールドブル(立花、犬塚、佐藤、飯塚)がGカテゴ

リー(65-69歳)で、ダブルスカル(三原、池田)がFカテゴリー(60-64歳)で出場した。

クオドクルーは、スタートから250mほどの多くの観衆がいるところでは他クルーにほとんど並んでいて大いに期待を抱かせるものだったが、その後はペースを緩めつつ1000mを漕ぎ切った。(次ページへ続く)



全日本マスターズ選手権大会に「宮ヶ瀬湖一葦会」登場

(続き)

2XFカテゴリーには4クルーが出場。スタートで狩野川クルーが半挺身リード、宮ヶ瀬湖一葦会クルーがそれに続いていたが、その後三菱が飛び出してそのまま圧勝。その他の3艇は中盤から900m付近まで団子状態、三原・池田組がやや遅れていたが、ラスト100mで三田漕を差し切ることができた。接戦で1秒ちょっとの間に3クルーとも入った。1000mのあいだ、自分たちの両サイドにずっと相手がいる状態というのは疲れるがレースとしては大変面白いものであった。

宮ヶ瀬湖BCからも多くが参加している「ボート団塊号」はエイト3クルーが出場する大所帯であった。玄武クルーはEカテゴリー

で今回も2位と優勝を逃した。団塊号の朱雀クルーはFカテゴリーで一緒に漕いだ志高クルーに0.38秒差と迫り、鼻高々であった。最終日の遅い時間の1杯レースであったがカモメ会がクオドルプルで4分を切る好タイムを出して優勝した。レースは悲喜こもごも、楽しみで出場した往年のオアズマンは隣のレーンに入っても意気揚々と漕いでいた。数秒の差で負けたエイトクルーメンバーは60歳の涙を流し、来年の雪辱を誓った。

来年は兵庫県豊岡市円山川城崎漕艇場で開催される。

(池田)



立花、犬塚、佐藤、飯塚、
コックス児玉のクオドルプル



池田・三原のダブル

陸上も行くボート部 ・ 「江ノ島ウオーク」、2月6日

春の小川はさらさら行くよ♪♪小田急町田駅から武蔵と相模を隔てる境川沿いに南下して江ノ島をめざす。歩行距離は33キロ。所要時間6時間。時速5.5km。こんな酔狂なことを考えたのは、アイデアマンの三原さん。なぜ思いついたかと言えば、日頃ランニングをしていたのに脚を故障してしばらくはウォーキングに切り替えようと思ったそう。時速6.6kmの速歩で歩いているうちに歩く楽しさを会得。距離を伸ばして自宅から江ノ島まで行ってしまったという。この楽しさを一葦会の仲間にも共有してもらおうと呼びかけたというわけだ。この熱意にまんまと乗せられたのが、今井さんと立花。藤沢市民の児玉さんまでがお出迎えに参加するという。

7:30出発。境川サイクリングロードの右岸を歩く。Oh, what a beautiful morning! Oh, what a beautiful day! 立春は過ぎたとは言え、朝の風はぴりりと肌をさす。東南に向かうので、太陽が目射る。

さすがに3時間を過ぎた頃からペースが落ちたが、富士の遠望などで元気を奮い起こす。

藤沢市に入り、境川からちょっとはずれて藤嶺藤沢高校横を通り、遊行寺を訪ねる。

箱根駅伝復路の難所「遊行寺」の坂道を自分の目で見て来るのだ。時宗清浄光寺というのが本当の寺名らしい。樹齢700年の大銀杏の裸木が見事。

国道1号線をくぐってからは随分と気が楽になってきた。あとはビールを思い描くだけで足が軽くなる。藤沢繁華街を抜けて再び境川右岸を歩く。境川にはモーターボートが両岸にびっしり並んでいる。心なしか潮の香りも漂っている。

川は蛇行を繰り返し、遠くに松の樹影を見ると、海が近いと心が躍る。その側道はぷつんと切れて、あっけなく終点。まんまえに竜宮城、江ノ島駅だ。到着13:00。ちょうど6時間。達成感十分。喜びを分かち合い、記念写真を撮る。そこから江ノ島に渡り、お目当ての昼食。平日なのに有名店は30分待ちという。とても待ちきれないので、近くの店で生ビールとちりめん塩から。これで乾杯。

長い、長い一日。仲間に感謝。

(立花)



会費納入のお願い!

老朽化する保有艇、オールの整備、日常使用において発生する故障修理に伴う費用が増加しています。紅葉レガッタなどで来湖する参加者に満足いただける環境を整備するために会費納入をお願い致します。

会費は、
個人会費 3,000円
賛助会費 10,000円
です。



漕艇場めぐり2009 — 会津「荻野漕艇場」、7月11日—12日

ボート愛好家なら「荻野」と言えば、「ああ、あの荻野漕艇場かい」と答えるほど、その名を知られたところ。宮ヶ瀬湖の碧水を自慢しながらも、「知らない川で漕いでみたい」との思いで始めたボート場めぐり。最初に選んだのはこの荻野。それも3年前のこと。はるばる磐越西線の列車に乗って着いてみると、前日までの雨とダム放流のため濁流の流れも速く、漕艇は不許可。泣く泣く、付近を走ったり、宿でエルゴを引いて、喜多方ラーメン食べて帰路につく。「思い出に残る合宿だ」と負け惜しみ。それから浜名湖・天竜川合宿、恵那峡合宿とそれぞれの地で、心に残る漫漕を満喫してきて迎えた今年。敗者復活戦への意気込みに似て、再びねらった荻野。関越道・北陸道・磐越道経由で、ETC効果抜群の500km、片道千円の格安ドライブだ。

梅雨明け宣言もまだという時節がら、不安もあったが、なんと薄曇りの好条件。阿賀川(阿賀野川を地元ではこう呼んでいる)が静かに流れている。宿は漕艇場のすぐ前にある民宿「やましよう」。エルゴもモーターボートもあるオアズマン大歓迎の宿だ。昭和27年の国体開催時につくられた1000m、6レーンの公認コース。当時「ボート山へ登

る」と話題になっただけに、周りは緑したたる山、山。着替えてすぐに艇を出す。総勢12名で、舵手付きクオドルプル2艇、ダブルスカル1艇。川岸は水際まで緑一色。阿賀川を漕ぎ進めて6km。只見川との合流地点から右に回って遡航4km。人工物も商業船や観光船もない。静かな川面に響くは櫂の音のみ。身も心も緑に染まる漫漕だ。

漕艇後は、近くの「ふれあいランド高郷」温泉で疲れをとり、夜の宴会に突入。笹団子のデザートや「やましよう」ブランドの焼酎を味わいながら、ボート談義に花を咲かせ、翌朝のイト漕への期待を胸に就寝。早朝の漕艇場は、文字通りの鏡。川岸に咲く合歓の花が妖艶だ。朝食後すぐに漕艇場へいくと、若者があふれんばかり。中学生がナックル艇の練習に励もうとしている。私たちは、早稲田大学が寄贈したというイトに乗艇。地元では滅多に見る機会がないというので、注目を集める。即席クルーなりに漕ぐほどに調子をあげて気分は最高。再来年は、全日本マスターズの会場として決定とか。宿の主人から早朝採り立てのキュウリをお土産に頂戴して、再会を約してお別れ。ありがとう、また会う日まで。

(立花)



早朝、鏡のような水面。



合宿参加メンバー勢揃い



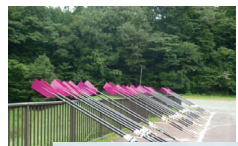
宮ヶ瀬湖ボートクラブブレードカラー、決まる！

今まで、クラブのオールはあちこちから集めてきたままで、ブレードカラーを統一することはありませんでした。クラブの艇、用具が次第に整い、時期も熟したということで提案があった色について会員の皆様の意見を聴取し、運営委員会において決定されました。色は単色で「赤紫」です。

単色は今後の塗装メンテナンスの容易性を考慮して、そして赤紫は清川村の花「ミツバツツジ」を表す意味で選択されました。

8月上旬、高原さんのリードのもと、塗装を行い、早速、新ブレードカラーで漕ぎだしました。湖面に映えます。皆さん、ご苦労様でした！！

(三原)



紅葉レガッタの時期迫る！

11月22日(日)、宮ヶ瀬湖恒例の紅葉レガッタが開催されます。昨年は初めての試みとしてダブルスカル種目を取り入れ、好評を頂きましたので今年も実施する予定です。例年出場クルー数が増え、看板種目になりそうな気配です。ホームページ等で申込み用紙の掲載とともに大会の案内をする予定です。

編集責任者 (理事)三原邦夫

事務局 (理事)鶴野省三 電話:046-884-3571/FAX 046-836-6785 e-mail: s_tsuruno@ybb.ne.jp